

アイコンの存在によって、コンピュータが何をユーザーに要求しているかということを認識しやすくなっていることがわかります。

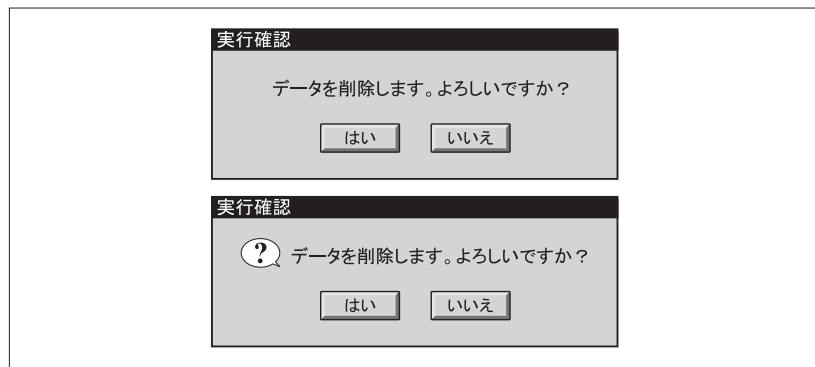


図6●文字だけのメッセージボックスとアイコンを利用したメッセージボックス

このように、メッセージボックスで頻繁に利用される「情報」、「注意」、「警告」、「問い合わせ」などのアイコン(図7)は、ユーザーが一目で直感的にそのメッセージがどのような意味を持つものであるかを伝達する役割を果たしています。

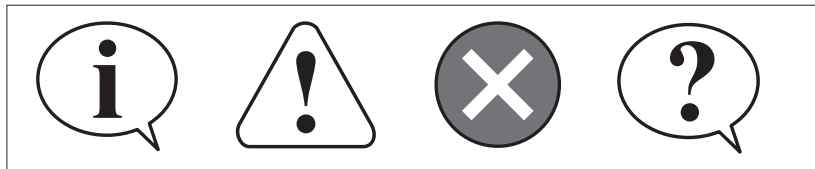


図7●「情報」、「注意」、「警告」、「問い合わせ」のアイコン

図8は、文字によるツールバーとアイコンによるツールバーのボタンです。この場合においても、アイコンを利用した効果は一目瞭然です。



図8●文字だけのツールバー(上)とアイコンを利用したツールバー(下)

ただし、アイコンにも欠点があります。それは、図8のツールバーからもわかるように、アイコンだけでは正確に情報を伝達することが困難であるということです。日常的に利用する表計算ソフトやワープロソフトなどのツールバーでも、アイコンで表現されているボタンの意味がわかりにくくて困惑することがあると思います。また、メッセージボックスでも、アイコンだけでは詳細なメッセージの内容を伝達することはできません。

そのため、通常、アイコンはユーザーの認識を補助するための利用にとどめ、何らかの手段によって文字による情報を付加する必要があります。例えば、多くのソフトウェアではツールバーのボタンに、マウスカーソルをしばらく合わせておくと、ボタンの名称が表示されるようになっていきます(図9)。このようにして現れる文字列は、「ツールチップ」や「ツールヒント」などと呼ばれています。



図9●ボタンにマウスポインタを合わせるとボタンの名称が表示される